

## 7

# 転院先から欲しい情報

土屋和子

医療法人真仁会 久里浜クリニック 看護科長

## POINT

- 1 患者は自宅に帰りたいという希望を持っていますがそれと同時に不安も強く感じています。できる限り転院前に維持透析を行う施設スタッフとの面接を行い不安感や通院の負担の軽減を図ることが大切です。
- 2 多くの患者は透析についての知識は断片的で、体系的な知識の習得には時間がかかります。数字を覚えこむだけではなく、自己管理の必要性を理解してもらいましょう。
- 3 高齢化した患者をどう支えていくかが大きな課題です。家族だけががんばることは困難です。

## はじめに

多くの透析患者は導入施設で透析を導入後、退院と同時に一定の期間を経て患者が通院しやすい地域にある維持透析施設へ転院されます。医療が中心だった入院生活が、入院前のコミュニティが中心となる生活に変化します。患者にとって透析を受けながら生活の再構築を始めることとなります。退院と同時に食事制限、水分制限、服薬管理、透析のための通院による時間の制限などたくさんの制約を受けながら日常生活を自己管理していきます。また、現在の医療

制度では、入院期間の短縮などの理由により透析について十分指導がなされるケースは少ないと考えられます。退院後の透析療法の中心は、「透析治療」、「薬の投与」、「食事などの自己管理」の3本の柱となっていきます。しかし、生活の場に戻ると自己管理を障害する要因があったり、通院そのものが負担になったりなどさまざまな問題が生じます。

この章では、そういった維持期にかかる患者への支援について触れたいと思います。

## 患者の不安への対応

患者は自宅に帰りたいという希望を持っていますがそれと同時に不安も強く感じています。できるかぎり転院前に維持透析を行う施設スタッフとの面接を行い不安感や通院の負担の軽減を図ることが大切です。

透析患者にとって、退院し社会復帰を果たしながら透析療法を続けていくことに対し大きな不安を抱えています。不安の内容としては、食事はどうしたらいいのか？新しい施設では穿刺はうまくいくのか？仕事や以前の日常生活に戻ることはできるのか？などさまざまです。患者の不安感を軽減するためにできるだけ転院前に施設見学を兼ねた面接を行います。施設側でも

面接は今後起こると思われる問題を予測したり、対処法を検討するための情報ソースとすることができます。表1に面接時のポイントを表示しました。患者の不安に対し対応を早期にとることができるのも転院前に行うことの利点になります。患者がセルフケアを行っていき家族の協力は得られそうなのか？今後介護が必要になったときはどうなるか？など将来に生じると思われる問題を先取りすることが可能となります。また、患者にとって透析治療のことはもちろんですが、各種の手続きや制度についても十分に理解していない場合があるため、入院中に受けている説明の補足を行います。

表1 転院前面接でのポイント

ポイント内容	理由
患者の全身状態	院内介助の必要の有無を確認するためや転倒リスク、透析ベッドの配置などの参考にするためにも転院前の段階からADLなどの観察が重要。
面接時に同席した人物や関係	実際に維持透析が開始になると家族とコミュニケーションをとる機会が減少するため初回の時点で患者の病態などについて家族の意向を確認する必要がある。
自宅での生活様式や役割	自宅に患者が戻られた場合、就業中か未就業かなど透析生活を維持していくうえで患者が優先順位をどこに置いているかなど把握する。(仕事を優先している、孫の世話が生きがいになっているなど)優先順位としているものと透析生活をどう折り合いをつけていくかの指標になる。
家族構成及び家族関係	家族のことを語る患者の表情なども家族関係を知る手掛かりになる。キーパーソンの存在の有無の確認など。
透析導入状況(緊急導入や計画導入など)	透析導入時や導入に至るまでの経過を知ることで、透析療法に対する心構えを知ることができる。例えば、何十年前前から糖尿病を指摘されていても治療を自己中断し心不全などにより緊急に透析導入を余儀なくされた場合、透析療法についての知識がほとんどなく長期的な視点での透析治療の受け入れが難しい場合がある。ほかに透析療法について行われた指導内容について理解状況なども確認する。
社会資源の利用状況について 身体障害者手帳や、必要な場合は介護保険の認定など	透析患者の高齢化や老老介護といわれる状況があり、家族内で介護力が潤沢とはいえない状況がある。透析生活を維持していくうえで社会資源の活用が必要かどうか見極める必要がある。また保険の仕組みなど患者にとって難しいと感じ手続きが後回しになる場合もあるので必要時は具体的に説明できるようにしたほうがよい。また各市町村によってもサービスの内容など違いがあるため複数の市町村の通院患者がいる施設では居住地をしっかりと把握して面接に臨む必要がある。